平成30年度
学校教育学部入学式　－学長告辞－

今年は特に多かった雪もいつの間にか消え，雪解けの水が土に溶け込み，雪国独特の春の香りを感じます。高田公園の桜も満開となり，まるで皆様のご入学を祝っているかのようです。

本日，上越教育大学学校教育学部に入学された１６７名の皆様，ご家族の皆様，ご入学おめでとうございます。本学教職員，在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。また，ご多用のところご臨席賜りましたご来賓の皆様に，深く感謝申し上げます。

さて，上越教育大学は，現職教員の資質能力の向上と初等教育教員養成という社会的要請に応えるために，設立された新構想の大学です。皆さんがこれから学ぶ学校教育学部の他に，大学院として修士課程と教職大学院を有し，さらに高度な研究を希望する方のために連合大学院博士課程も設置されている，教員養成のための総合大学と言えましょう。皆さんはこれからこの上越教育大学で４年間，学ばれるわけですが，教師としての専門的知識と，優れた実践的指導力を身につけた教師を目指して，しっかり学んでほしいと願っています。

さきほど，現職教員の資質能力の向上というお話をしましたが，実は大学院全体の２割以上は学校現場の現職の教師の皆さんが大学院学生として所属しており，そのため，キャンパス内では皆さんよりずっと年上の学生さんを多く見かけることと思います。このことは，これから教員を目指す皆さんには，その環境は願ってもないものとなりましょう。授業で一緒に学ぶ機会は少ないかもしれませんが，それでも現職の先生方と日頃からゼミなどで接することにより，生の学校現場の状況や課題をごく身近に，本音で聞くことができ，それが必ずや皆さんが目指すであろう教員への道に，大きな力となってつながることでしょう。

学校教育現場でも大きな変化が起こっています。皆さんもご存じとは思いますが，道徳が特別な教科として，小学校には４月から，中学校には来年度から導入されます。また小学校でも５年生から英語が教科として新しく加わり，その他にも情報活用能力・プログラミング的思考の重要性が指摘され，小学校にもプログラミング教育が導入されることになりました。このように，子どもたちが学ぶ内容は常に変化し，新しいことが加わっています。それに伴い，教師の教える内容も増えてきています。

子供達には「自ら主体的に学ぶ力，コミュニケーション能力を伴った対話的な学び，論理的思考に基づく深い学び」など，未来を生きるための力を身につけることが求められ，教育現場にもその対応が求められています。子どもたちは，自ら課題を見つけ，答えの決まっていない問いを解決する力を身につける必要があります。子供たちがどのような能力を身につけるかは，教育に委ねられており，教師の責任は重大であると言えましょう。

そのためには，教師自らが学ぼうとする意欲を持ち続ける必要があります。自ら学び続けてこそ，子供達に学ぶ楽しさや学ぶことの意味を伝えることが出来ます。子供達の学ぼうとする気持ちを引き出すことができれば，子供達はスポンジが水を吸収するように，多くのことを自分のものにします。ここにおられる皆さんが将来，このような子どもたちを育てることのできる，「教えのプロ」になるために，大学としても教員やカリキュラムなど，教職員一丸となって環境を整え，しっかり対応いたします。是非，そのような教師を目指し，努力されることを願っています。

知識として知っていることと，それを教えることは違います。教師は単に教科書に沿って，知っていることを教えていると思ったらそれは大きな間違いです。例えば，映画監督が映画を撮影することを考えてみると，完成した映画には監督そのものは映り込んでいませんし，一般の観客から見ると映画の中では俳優のみが存在感を発揮するように見えます。しかし，映画の完成のためには，映画監督は実は，非常に高度な仕事を行っています。

台本を始め，情景や背景，画面のフレームワーク，編集時に挿入される音響効果など細部まで知り尽くしており，盛り込まれる芸術性や撮影効果の専門的知識，映画全体を通して観客に訴えたい事柄の解釈において，誰よりも卓越しています。さらに俳優１人ひとりの力・個性・創造性などを最大限に引き出す能力を備え，その全てを最大限に発揮して実はカメラを回しています。そのことは映画監督が撮影前に非常に多くのリハーサルを行い，細かい指導で自分の理想に近づけようとすることでも分かります。その際には俳優と議論し，俳優の才能を伸ばすために臨機応変に対応し，シナリオを弾力的に変更するかもしれません。同じ原作でも，監督によって映画としての作品が大きく違ってくることは容易に想像できます。しかし，その高度な芸術性や専門的知識，精緻な分析力，俳優の創造性を最大限に引き出す能力などは，一般の観客が映画を見る時には見えるものではありません。

教師も同様で，教師の仕事ほど複雑で知的で芸術的で高度の創造性と専門性を求められる仕事はないと思っています。学校現場で子供達それぞれの個性を発揮させながら，クラスをまとめあげる学級運営などは，映画監督のそれと似ています。しかし，教師が持っている専門的知識や専門的能力のほとんどは，外からはっきり見えるものではありません。

このように，教師に求められるものは極めて高いこと，そのためには常に学び続ける姿勢が必要です。自分が学ぶ喜びを知ってこそ，それが教える喜びに繋がり，ひいては教え上手に繋がると考えています。教師が人を思いやる心を強く持ち，子供達一人ひとりに誠実に向き合うことにより，子供達の個性や性格を的確に把握し，子供達が自ら学ぼうとする意欲を高めることできる教師を目指して，子供達の個性を伸ばすことができる教師を目指して，この４年間学んで頂きたいと思います。

そのためにも，皆さんにはこの４年間で夢中になれるものを見つけ，これだけは他の人には負けない，これだけは自信がある，これだけは頑張ったというものを身につけて頂きたいと思います。例えば，資格の取得やボランティア活動でも良いでしょう。スポーツ，文化活動や部活・サークル活動で頑張るのも良いかもしれません。極端に言えば，高田城ロードレース大会完走や自転車で長距離走破などでも良いかもしれません。その経験は必ず教師となったときに支えとなると信じています。また，ここにおられる皆さんは，本学に全国から集う教師の卵です。そのため是非，大学では友人を見つけてください。大学で得た友人は一生の宝です。友だちとの絆を大切にしてほしいと思います。

さて，いよいよ学園生活が始まります。本学の歴史は，今年，創立４０周年を迎えるなど，長くはありませんが，教育界に大きな足跡を残していることは自他共に認めるところです。

海と山に近く，自然環境が素晴らしい，四季の移ろいが鮮やかな上越市の学びの館，上越教育大学で，健康に十分留意しながら，充実した４年間の大学生活を送り，皆さんが，心に期している目的を達成できますよう心より祈念し，告辞といたします。

平成 30 年４月６日

上越教育大学長　川崎直哉